

地上デジタル放送普及推進 ミニドラマ

# 割れたせんべい

いちごとせんべい その2

(撮影稿)

脚本 大岡俊彦

登場人物と配役

綾子（27） 煎餅や「ささき」の女房。

………松下奈緒

祐一（27） 煎餅や「ささき」の主人。

………向井理

源治（62） 綾子の父。外見は一見まじめ

で硬いが、実は柔軟でお茶目  
な内面が綾子にそっくり。

………平泉成

○1 煎餅や「ささき」

タイトル「いちごとせんべい その2」

○2 同、煎餅ドラムの前

口論する綾子、祐一。

声はサイレントで、二人の表情だけでその激しさを物語る。

綾子ナレ「ケンカした。結婚して、はじめての大ゲンカ」

ドラムの中で回る、味つけせんべい。

まるめた雑誌を持つ祐一は反論。はげしく机を叩く綾子。

はずみに、机の上に置いた（乾燥中の）せんべいの山が、床に落ちて割れてしまう。

綾子「…」

祐一「…」

綾子ナレ「原因はささいなことだと、思う」

その煎餅に、タイトル。

『割れたせんべい』

○3 綾子の実家、リビング、夕

山盛りのいちごを黙々と食べている綾子。父の源治はテレビを眺めている。

源治「それでしばらく実家に帰らせていただきます、なのかい」

綾子「話をおおげさにしないでよ。いちご食べに帰ってきただけ。やっぱ実家のが一番だわ」

源治「埼玉だろうが東京だろうが、同じ栃木産のが来てるだけだと思うよ」

綾子「雰囲気が違うのよ。…はい、お土産」出したのは割れた煎餅。

綾子「味付けの機械がドラム式だから、こ  
う、何枚か割れちゃうのよ。昭和の機械だし。身内用のだけど味は同じだから」

源治「（ぼりぼり食べて）ウマイね」

綾子「でしょ？ 祐一の焼いたせんべいは日本一なのよ」

つい綾子はそのせんべいを食べてしまい、また怒る。

テレビで流れるニュースは、スカイツリー建設中の映像。

源治「明日さ、東京観光に連れてってよ」

綾子「どうして？」

源治「娘とデートするのに理由なんているかい？ 明日会社休みなんだよ」

綾子「いいわよ。私がお店にいないとどれだけ困るか、祐ちゃんにはいい機会になるんだから」

○4 「ささき」内、夜

ケータイで話している祐一。

祐一「ハイ、そうですか。：まだ、綾子怒ってます？」

床の割れたせんべいを片付けている。

ケンカのと き持っていた雑誌を開こうとするが、やめる。

○5 翌日、秋葉原路上

メイド達がビラ配りする電器街。

メイド「左様でございますご主人様」

源治「ホントにご主人様って言うんだねえ」

源治は素直にビラをもらっている。

綾子は源治へ先をうながす。

源治は嬉しそうに何度も手を振る。

綾子「何やってんのよお父さん」

綾子「さつきはさつきでどこに行くのかと思えば」

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

× × ×

源 治「何を言う。天才パティシエ宮田さんのライチミルフィーユが堪能できるのは、あの店だけだぞ」

綾 子「東京観光って、浅草とか行くのかと」  
源 治「何を言う。ナウでヤングでデジタルこそ、東京なのだ」

二人はパソコンショップなど、アキバ的な風景の中にいる。

源 治「次は：あそこだな」

指差した先は、建設中のスカイツリー。

○ 6 建設中のスカイツリーの下、夕

綾子と源治、下から眺める。

源 治「いやあ近くで見るとデカイねこりゃ。どのへんからデジタル波がビビビって出るのかね？ ウチまで届くらしいね」

綾 子「周りにはまだ何にもないでしょ？」

源 治「これから出来るんだよ。東京タワーの時もそうだった。新しい時代がざわざわざわざわ始まってね。忘れられないよ。こもいずれそうなる。展望台が出来たら、祐一さんと登りなよ？」

綾 子「：」

源 治「なんだよ、別れるの？ 一生会わないの？」

綾 子「私はね、あのおせんべいをもっと多くの人に食べてもらいたい。一枚だって、割れてほしくない。今の時代、もつといい機械だってあるんだから、新しいのを買いたい。なのに、お金は別のことに使う、なんて勝手に決めて」

源 治「それは、彼に言ったのかい？」

綾 子「(首を振る)」

源 治「(ケータイを見せる。通話中) 聞こえた？」

祐一の声「あ。：ハイ」

綾 子「えっ！ いつから通話してたの！」

源 治「(笑) 東京タワーのくだりから。：(祐一と話して) 見せたいものがある

って」

○7 煎餅や「ささき」店先、夕

シャツターが半分としており、「本日臨時休業」の張り紙が綾子の心をチクリとさせる。

祐一が待っている。

綾子「…」

色とりどりの割れたせんべいが、詰め合わせの束に。

源治「おっ。割れせんべいだな」

祐一「ハイ。ウチでもやることにしようかと。今は、安く譲れば喜ばれますし」

綾子「…」

祐一「(綾子に)割らない工夫なんて、俺には考えもつかないよ。何で言わないの」

持っていた雑誌を広げると、南の島リゾートの広告。

綾子「え」

祐一「ずっと二人で働いてきたから、結婚して一周年だしと思って」

綾子「…そっちこそ、なんで言わないの」

源治「ははは。どちらも黙ってるのが得意なのかねえ」

割れたせんべいを食べる。

祐一「(綾子に)ちゃんと売って、貯金しないかね」

綾子「祐ちゃん」

源治「ははは。安心したよ。会社さぼった甲斐はあったかな。じゃ」

詰め合わせを持って去る。

綾子「お父さん、今日休みだって…」

祐一「あ(慌てて一礼)」

綾子「ありがとうお父さん」

源治、西洋の演劇のような一礼。

× × ×

店内に戻る綾子と祐一。

ふたつに割れたせんべいが、袋の中でひとつになっっているように見える。

綾子「それ、商品名は『仲直り』でどう？」  
祐一「？」  
綾子「ちよつとぐらい割れたって、ぴった  
り戻る、て意味で」  
祐一「：俺も同じ事考えてた」  
ほほえむ祐一。笑う綾子。身を寄せる  
二人。  
カメラ引いていき、全景。ちいさな店  
と街を見守るのは、建設中のスカイツ  
リー。

タイトル『ずっとあなたと、いたいから。』

2011年7月24日、NHKはデジ  
タル放送へ移行します』